

地球温暖化により世界のエネルギーに対する関心は年々高まっています。日本も東日本大震災以降、エネルギーに対する意識は大きく変わりました。

特に温室効果ガスを排出しない再生可能エネルギーに対する期待は大きく、太陽光や水力と並び、風力発電に対する期待も高まっています。

令和元年 11 月 29 日の参議院本会議で可決成立した「改正港湾法」で、洋上風力発電設備の積み出しなどを担う基地港湾の整備や、国際コンテナ戦略港湾政策の推進に向けた港湾運営会社への国職員の派遣などを盛り込み、国が洋上風力発電設置等の基地となる港湾を指定し、その港湾の埠頭を発電事業者に長期間貸し付ける制度を創設し、国内の洋上風力発電設置を促進します。

港湾法改正に先立ち、平成 31 年 4 月に「海洋再生可能エネルギー整備法」が施工され、より沖合に位置する一般海域での風力事業展開が始まっており、これで風力発電の設置は今後加速するものと確信しています。

【秋田港】

秋田港は、背後地に亜鉛製錬所や製紙工場、木材加工工場からの現在や製品の輸送や、東北電力秋田火力発電所や LNG 基地の燃料等の輸移入を担っている東北の重要港湾で、コンテナやフェリーの定期航路や近年では国内外の大型クルーズ船が寄港する地域の交流拠点となっています。

また、地政学的に風況に恵まれた秋田港は、洋上風力発電のポテンシャルが大きく、今後の風力発電の重要拠点港湾として期待されています。

令和元年 11 月 25 日に視察したユーラス秋田港ウィンドファームは、豊田通商と東京電力が出資してできた再生可能エネルギーの発電事業者（ユーラス社）による大型風力発電で、2015 年に秋田港で操業を開始し、総出力 18,000 KW (3,000 KW×6 基)の風力発電所です。



秋田港は、クルーズ船の寄港に合わせ、かつての貨物用路線を有効活用して秋田港駅と秋田

駅を結ぶ「秋田港クルーズ列車」を運行している特徴的な港であり、今後も東北の重要拠点港湾として更なる進化が期待されています。

【鹿島港】

令和元年 11 月 26 日に視察した茨城県鹿島港は、東京都から 80 km の至近距離に位置し、加えて水資源として年間流入量 11 億トンの霞ヶ浦を控え、有利な臨海工業用地を有する重要拠点港です。近年、東関東自動車道の開通により鹿島港に利便性が向上し、日本の物流の一大拠点としての役割を期待されています。

鹿島港においては、沿岸に建てる風力発電設備の先駆例となるウィンド・パワーかすみ洋上風力発電所を視察しました。総出力は 30MW で、第 1 期発電所（平成 22 年 7 月開始）が 7 基、第 2 期発電所（平成 25 年 3 月開始）が 8 基の合計 15 基で出力しています。

海に向かって連なる大型風力発電は圧巻であり、太平洋からの安定した風を受けて電力を供給しています。



令和元年 11 月末に成立した港湾法改正により、風力発電の設置条件が緩和されたことで、今後事業者の投資が期待されます。

風力発電設備の製造に必要な部品点数は、陸上型で約 2 万点と言われ、洋上型であればそれ以上になります。これはガソリン自動車でも約 3 万点の製造部品が使われることを考えると、産業として大変裾野の広い産業であり、新たな産業を育つこととなり、雇用も創出します。

今回、視察した秋田港と鹿島港は、いずれも風力発電の重要拠点港として、今後積極的に設置していくことが期待されています。今後も全力で応援して参りたいと思います。